

平成28年3月29日

第一回

大切な人を偲ぶ会さくらさくら

訪問看護ステーションはーと  
木戸 恵子

駅前商店街ステーションロード  
遺族会  
さくらさくら  
produced by  
Story  
介護の heart  
みのり♥カフェ





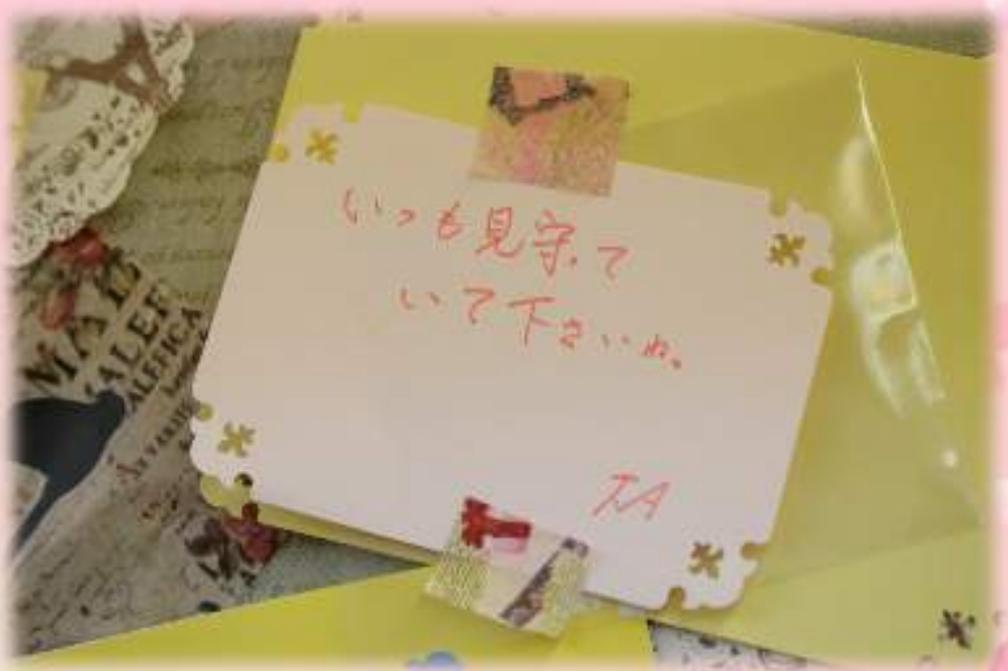














その日はスタッフ全員が神聖な気持ちであった。

桜色のブラウスを選んだのも自然だった。

設立以来初めて遺族会を行う、上手く言い表せないが、いつにもない新鮮な緊張が走る。毎年、100人を越える患者さん方をお看取りする中で、訪問看護ステーションとして患者さんの最期の一息まで安らかに尊厳は守れたか、ご家族は大切な方との最期の時間を緊張の連続の中で穏やかに後悔なく精一杯過ごし見送れたか、自分自身と家族等の愛や絆を十分に感じた満足のある幕引きであったか、そして私たちはきちんと寄り添えたか。受け持ち看護師は出来る限りのグリーフケアに努めている。が、集合体としての遺族会となると構えてしまう。スタッフの気持ちの合致のための話し合いに2年がかかった。

当日の献花台やメモリアルブース、ハーブの傾聴、彩りある軽食は参加者全員が現実から少しだけ離れて、故人とつながる静かな時間にタイムスリップできた。ご家族だけでなく関わらせていただいた私たちにも安らかな大事なひとときであった。御遺族を労い暖める役割がいつの間にか立場が入れ替わってしまったような一体感を感じた。隣り合わせた方の涙や笑顔が自分のものとなり地域の不思議な確かなつながりとなった。

